

横浜市市民スポーツ意識調査報告書データ公開!

～健康に向けて「日常的に歩きたい!」～

(公財)横浜市体育協会では、毎年、横浜市民の運動・スポーツ実施状況とスポーツに対する意識を把握するため、市民スポーツ意識調査を行っています。平成 28 年度は、「過去 1 年間の運動・スポーツ実施種目」をはじめ、「健康寿命に関すること」、「医療費」、「ラグビーワールドカップ・オリンピック・パラリンピックに関する意識」、「子どもの頃の運動への意識」、「回答者のお子さんの運動実施種目」、「ウォーキングの際に欲しいサービス」についても調査を行いました。

この度、これらの調査結果を取りまとめ、「横浜市市民スポーツ意識調査報告書 (PDF データ)」および「単純集計結果 (EXCEL データ)」を横浜市体育協会のホームページで公開しました。

TOPICS

- ★週 1 日以上の実施率は 52.6% (+3.3 ポイント)、週 3 日以上は 26.8% (+3.4 ポイント) に伸びるも、若い世代では「実施頻度」が伸び悩み、実施状況への「不満傾向」は増加 (スポーツ基本計画(国)・スポーツ推進計画(市)の目標⇒週 1 以上:65%,週 3 以上:30%)
- ★時代とともに変化する子どものスポーツ実施種目「テニス」(18.3%) > 「野球」(9.6%)
- ★1 年間のスポーツ実施率は 79.0%に達するも、現役世代との間にある「実施率の壁」最高は 70 代以上の 89.0%、30 代は最低の 70.9% その差なんと 18.1 ポイント!
- ★スポーツは「する」(30.9%) よりも「観る」(41.5%) 方が好き
- ★リオオリンピック・パラリンピックを 6 割がテレビで観戦するも、7 割以上が「その後の行動に変化なし」
- ★約 7 割が「運動不足」を感じている
- ★健康寿命を延ばすためには、日常的に「歩きたい」 & 「食事に気をつけたい」



◆◆調査概要◆◆

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| ◇対 象 者：横浜市に居住する満 20 歳以上男女 | ◇主な調査内容：実施・観戦種目と頻度 |
| ◇調査方法：インターネットのアンケート調査 | 子どもの運動状況 |
| ◇調査期間：平成 28 年 10 月 14 日～18 日 | 健康・医療費への意識 |
| ◇回収状況：有効回答数 1,600 件 | ウォーキングについて |

◆詳しくは (公財)横浜市体育協会ホームページをご覧ください。 <http://www2.yspc.or.jp/ysa/jigyoshokai/chosa/>

お問い合わせ先

(公財)横浜市体育協会 経営企画部長 今井 健雄 Tel 045- 640-0016

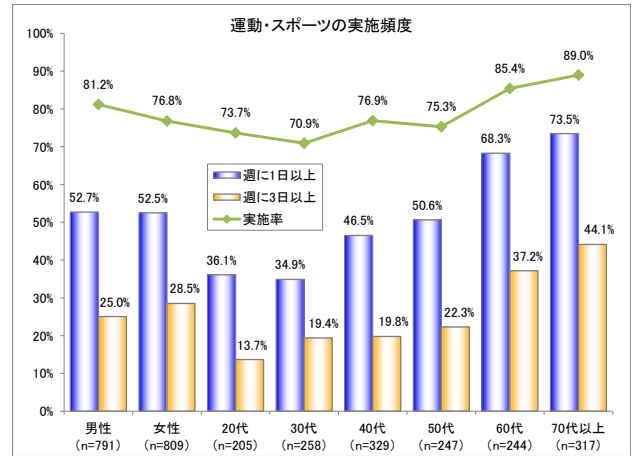
裏面あり

【調査報告の一例】

■若い世代で伸び悩む「実施頻度」

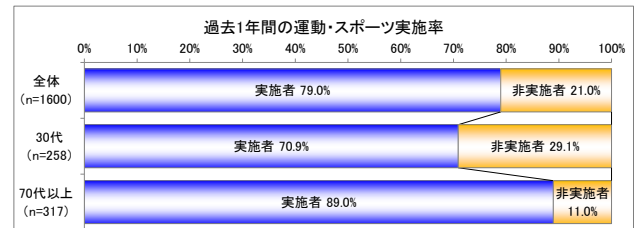
60代と70代以上は、実施率も実施頻度も高かったが、20代や30代は、実施率も実施頻度も低い状態であった。

特に20代は、週に3日以上の実施率が13.7%となっており、最も実施頻度が低かった。



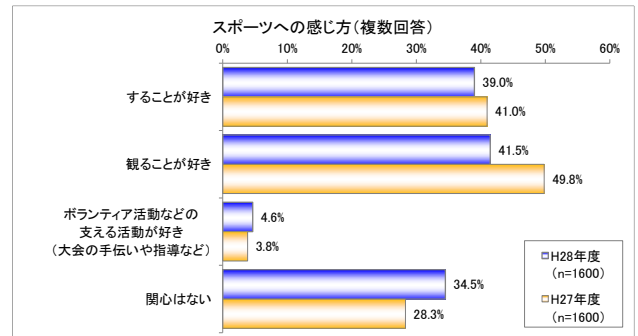
■スポーツ実施率は微増の「79.0%」

「70代以上」の実施率は89.0%となり、全年代の中で一番高くなった。しかし、「30代」の実施率は70.9%となり、全年代の中で一番低くなった。30代と70代以上のスポーツ実施率は、18.1ポイントもの差が生じている。



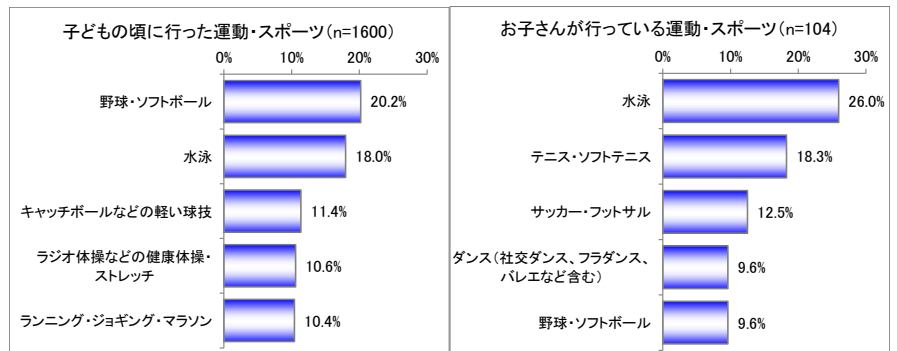
■スポーツは「する」よりも「観る」

運動・スポーツは、「すること」よりも「観ること」が好きな割合が若干高く、「関心はない」とする割合が約3割を占めた。27年度と比較しても傾向に大きな差はなかった。



■「時代とともに変化」する運動・スポーツ実施種目

回答者が子どもの頃には、「野球」「水泳」「キャッチボール」。回答者のお子さんが行っているスポーツは、「水泳」「テニス」「サッカー」。「水泳」以外は種目が異なっており、時代とともに種目の変化が見られた。



■健康寿命を延ばすためには、日常的に

「歩きたい」・「食事に気をつけたい」健康寿命を延ばすために取り組みたいことは、「日常的に歩きたい」と「日常的に食事に気をつけたい」が高い。ただし、スポーツを行っていない人の過半数近くが、「特に関心がない」と回答しており、この方々に、自身の健康について関心を持っていただき、健康寿命の延伸に向けて取り組んでいただけるようにする必要がある。

